

再 評 価 書

箇所名	主要地方道御浜紀和線 (西原バイパス)	事業名	道路事業	課名	道路建設課 (熊野建設事務所)
事業概要	工期 (下段:前回)	H22年~R14年	全体事業費 (下段:前回)	1,122百万円(負担率:国45:県55)	
	事業目的及び内容				
<p>■当該路線の状況</p> <p>主要地方道御浜紀和線は、南牟婁郡御浜町阿田和の一般国道42号を起点とし、御浜町を縦貫し熊野市紀和町矢ノ川の一般国道311号へ至る延長約14.6kmの生活幹線道路です。</p> <p>当該路線は、御浜町西部及び熊野市紀和町の地域住民にとって、国道42号へ抜ける重要な通勤ルート及び定期バスの運行ルートとして、重要な役割を担う道路となっています。</p> <p>事業区間は、尾呂志川と急峻な山地の間を抜ける幅員狭小、線形不良区間であり、これに起因する交通事故も発生しています。</p> <p>近隣には、御浜町、紀宝町及び熊野市紀和町で構成される南牟婁清掃施設組合の一般廃棄物最終処分場があり、町内だけでなく紀宝町からの廃棄物の運搬ルートとしても利用されています。</p> <p>当該路線の整備により、幅員狭小・線形不良区間が改善され、安全で円滑な交通機能の確保が期待されます。</p>					
<p>■事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅員狭小・線形不良区間の解消 ・沿道利用者の利便性向上 					
<p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 23年間(平成22年度~令和14年度) ・全体事業費 1,122百万円(工事費:1,060百万円、用地補償費:62百万円) ・計画延長 L=1,200m(起点)南牟婁郡御浜町西原 ~ (終点)南牟婁郡御浜町上野 ・幅員 W=5.5m(7.0m) 					
事業主体の再評価結果					
<p>1. 再評価を行った理由</p> <p>事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業であることから、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(2)に該当するため再評価を行いました。</p>					
<p>2. 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度末の事業進捗率は、10%(工事:9%、用地取得(面積比):84%)となっています。 ・平成30年度より1号橋側から道路工事を進めています。 <p>2-2 今後の見込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度にバイパス区間(1.0km)の用地取得が完了します。 ・コスト削減に努めながら、引き続き事業の進捗を図り、令和14年度の完成を目指します。 					
<p>3. 事業を巡る社会経済状況等の変化</p> <p>当事業は平成22年度に事業着手しましたが、平成23年9月に発生した紀伊半島大水害により、熊野地域は甚大な被害を受けました。</p> <p>熊野建設事務所では、災害復旧室を平成26年度まで設置し、災害復旧にかかる事業を最優先に事業展開を行ってきました。</p> <p>このような社会状況の変化もあり、紀伊半島大水害被災時に事業着手したばかりであった当事業の工事着手は、平成30年度になりました。</p>					

4. 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用対効果分析

① 前回評価時の費用対効果分析の結果

【前回評価時】(平成22年時)	
総費用(C)	6.3億円
総便益(B)	10.3億円
費用便益比(B/C)	= 1.6

② 費用対効果分析の結果

費用便益比(B/C)	総費用(C) (残事業) / (事業全体)	総便益(B) (残事業) / (事業全体)
【事業全体】 1.2	6.6億円/8.7億円 事業費 : 6.4億円/8.5億円	10.1億円/10.1億円 走行時間短縮便益 : 8.9/8.9億円
【残事業】 1.5	維持管理費 : 0.24億円/0.24億円	走行経費減少便益 : 1.2/1.2億円 交通事故減少便益 : 0.0/0.0億円

③ 感度分析の結果

【事業全体】	【残事業】
交通量 : B/C = 1.0~1.3 (±10%)	交通量 : B/C = 1.4~1.7 (±10%)
事業費 : B/C = 1.1~1.3 (±10%)	事業費 : B/C = 1.4~1.7 (±10%)
事業期間 : B/C = 1.0~1.3 (±20%)	事業期間 : B/C = 1.3~1.7 (±20%)

※出典：費用便益分析マニュアル(平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)

4-2 その他の効果

○救急搬送の安定化

紀南病院は二次救急医療機関に指定されており、熊野市紀和町方面からの救急搬送路としても、当該路線は重要です。また、線形不良による傷病者への揺動が大きく、速度抑制を余儀なくされています。

また、事業区間は落石が多く、救急搬送時に落石による通行止めが起りかねません。西原バイパスの整備により、救急搬送車両が安心して、対面通行が出来ることになり、搬送時間の短縮が図られるとともに、線形が良くなることで、傷病者への揺動が軽減されます。

○公共車両(ゴミ収集運搬等)の利便性向上

事業区間の東西には、御浜町、紀宝町及び熊野市紀和町で構成される南牟婁清掃施設組合の一般廃棄物最終処分場及び紀南清掃センターがあります。町内だけでなく紀宝町で発生する資源にならないごみを受け入れ、紀南清掃センターでは、熊野市紀和町で発生する可燃ごみを受け入れており、当該路線はこれらの運搬ルートとしても利用されています。西原バイパスの整備により、日常生活に伴う公共車両の利便性が向上します。

○地域産業・観光の交流促進

御浜町内の「道の駅パーク七里御浜」の隣接地にホテル建設が予定されています。ホテル事業では「地域の魅力を渡り歩く旅」を提案しています。西原バイパスの整備により、町内の熊野古道風伝峠や、熊野市紀和町の丸山千枚田や赤城城跡等の観光地へのアクセスが向上します。

4-3 地元意向

三重県町村会が「平成31年度 国・県に対する要望事項」にて、御浜紀和線の未改良区間である西原バイパスの整備促進を要望しています。

また、紀南土木行政推進協議会が、「要望書 紀南地域の土木事業の整備推進」にて、西原バイパスの早期供用に向け、事業を強力に推進することを要望しています。

5. コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

主要構造物として橋梁を3橋計画していますが、うち鋼橋の2橋は、耐候性鋼材を使用し、塗装費用を削減します。残りの1橋は、橋桁に新技術工法として開発された、桁の本数を減らすことができるコンボ桁を採用することで、上部工施工費を削減します。

また、道路法面の一部に張コンクリートを行い、草刈に要する維持管理費を削減します。

さらに、道路の盛土材については、他工事との調整を図り、他工事で発生する建設発生土を使用し、コスト削減を図ります。

5-2 代替案

事業計画時に検討した現道拡幅案は、道幅の狭い急峻な地形での拡幅工事となるため、施工中の通行規制により、道路利用者に大きな影響を及ぼすことや、コスト面においても優位性が無いことから、バイパス案を最適ルートとして採用しました。

なお、バイパス区間の用地については、97%が取得済みであり、本年度で全て完了することから、代替案はありません。

再 評 価 の 経 緯

再評価の経緯はありません。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。